

曾於市内の山城跡



曾於市教育委員会
文化財係 橋口 拓也

曾於市は平成17年7月1日、財部町・末吉町・大隅町の3町が合併し誕生しました。

市は霧島山系・桜島・喜界カルデラ由来の火山灰や火砕流の堆積が顕著で、急峻な山地が多く平地が少ないといった特徴があります。市内にはこれらの環境を生かした山城跡が多く残されています。

市内の山城跡

★市指定……5件

財部町＝龍虎城跡

末吉町＝末吉城跡・平松城跡・宝珠庵城跡

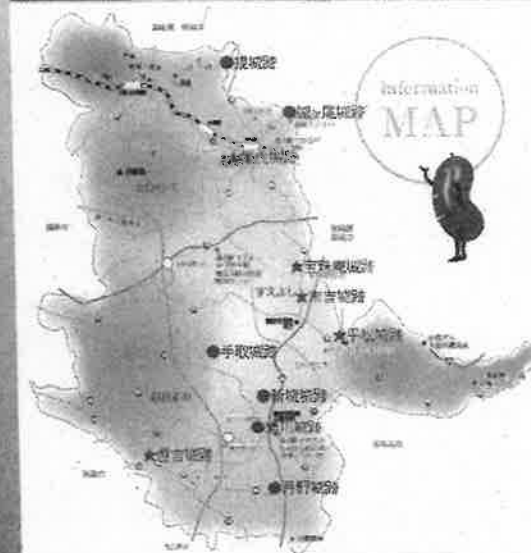
大隅町＝恒吉城跡

●未指定……6件

財部町＝堤城跡・城ヶ尾城跡

大隅町＝手取城跡・新城跡・岩川城跡・月野城跡

……その他陣跡や伝承地も数多くあり、現在も調査中……



★＝市指定の城跡
●＝指定外の城跡

★
・龍虎城跡
・末吉城跡
・平松城跡
・宝珠庵城跡
・恒吉城跡

●
・堤城跡
・城ヶ尾城跡
・手取城跡
・新城城跡
・岩川城跡
・月野城跡

堤城跡



築城年は不明、年代が不明な戦記が郷土史に記載されています。下総郎には清ノ口・堤・平原にそれぞれ同族城主がいました。ある時堤城に襲撃がありましたが、城主の堤氏は、城下を廻る清ノ口川に壘を造り、城下の背越の道に地雷を仕掛けました。敵軍は壘き止められた川により進軍できず、背越の道の地雷により大損害を受けたとあります。

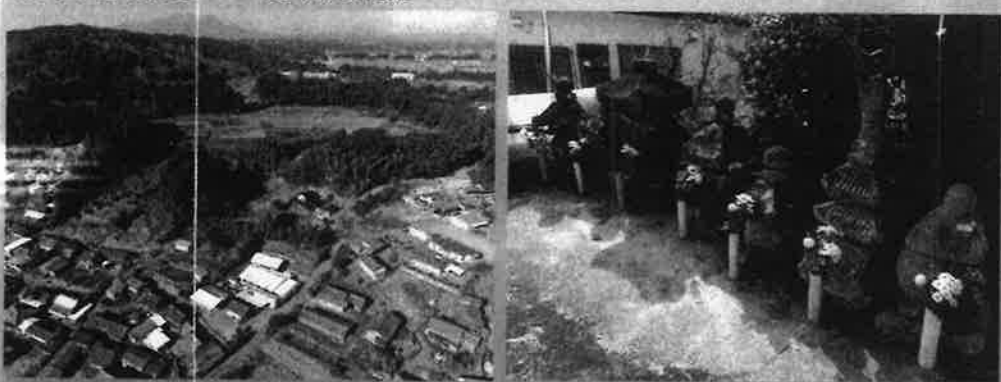
城ヶ尾城跡



県境にあり、築城は南北朝期と考えられます。肝付兼重の配下で守備し、足利尊氏方の畠山直顯(ただあき)の軍勢との戦いの記録が残ります。永禄8(1528)年に北郷忠相が陣を敷き、伊東祐充(すけみつ)と連携し、新納忠勝を打ち破っています。この功により島津氏より財部院を与えられており、城の跡には川内の石塔群、正寿寺跡があります。

城ヶ尾城跡

～近くの文化財～



川内の石塔群(市指定文化財)

相良氏系の厩塚、五輪塚と考えられますが、欠損した部分があります。一番大きい五輪塚は応永元(1394)年、都城の北郷氏との戦いで戦死した相良前頼(さきより)の供養塔との説があります。

宝珠庵城跡



築城年は不明。深川氏をはじめ、和泉氏、新納氏、豊州島津氏などが深川に治所を置き、居城として使用していました。また城内に天竜山持宝院という寺もありました。

永禄3(1560)年、將軍足利義輝による、島津、伊東氏の和睦会談の記録が残ります。將軍の使者伊勢貞通(さだかず)は、宝珠庵城を舞台に鉄肥を幕府直轄地とし、伊東氏の領地を返させようとしたが、島津側は伊東氏に有利だとして調定は破談となりました。

島津藩主、8代久豊、9代忠國、11代忠昌、15代寛久がたびたび滞在したと記録が残ります。

宝珠庵城跡 ～近くの文化財～



島津久豊の姫さんの墓



熊野神社の五輪塔(市指定文化財)

南北朝期、深川院は御園院の地頭職に就いていた野辺氏の代官である深川氏(久保の二男彦作守盛政)が治めていました。神社付近は、租税を収納した倉庫の事務所を執る役所跡で、末吉が深川院と呼ばれるようになった発祥の地でもあります。五輪塔群は深川氏の墓と考えられています。

末吉城跡



建久7(1196)年、島津忠久に従った稲村伊賀守重家の築城。別名亀鶴城。室町時代永享4(1432)年頃には9代島津忠国が居館として利用し、末吉一帯から都城まで管治していました。天文年間(1532～1555)は蘇肥領主島津忠親の領地となりましたが、永禄2(1559)年に島津貴久に譲渡され、貴久はこれを北郷時久に与えます。文禄4(1595)年からは伊集院幸胤の所領となりました。

末吉城跡



庄内の乱では伊集院方の郡城十二外城の一つとなり、伊集院忠真の弟小伝次、伊集院兵部少輔忠能、川崎源太夫、始良八郎左衛門らが守備します。島津方は恒吉城を落とした3将で攻めますが、城壁堅固で和睦により開城しました。

末吉城跡 ～近くの文化財～



興昌寺の仁王像と五輪塔(市指定文化財)

末吉郷の菩提寺でしたが、仁王像のみ残存しています。五輪塔は地輪に「藤原氏正中三年(1326年)」とあり、市内に残る五輪塔では最も古いものです。



末吉郷の地頭飯屋門

かつては末吉城内に飯屋がありましたが、宝暦5(1755)年に移転しています。

乱後は城を中心に末吉外城(郷)が建設されます。城は9の城から成る広大な城域を保持していましたが、元和偃武により取り壊されます。城内に地頭飯屋が置かれ、周囲に藪が形成され郷土屋敷が並び、田村から中原方面に野町が作られました。郷土の藪は城跡から北東の興昌寺にありました。宝暦5(1755)年に地頭所が現在の末吉中に移転しています。

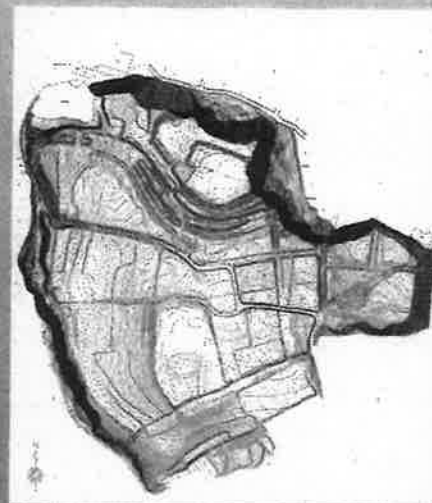
平松城跡



築城年代は不明ですが、『三国名勝図会』には、元龜4(1573)年1月の国合原合戦の時に、北郷氏の家臣(肝付氏の家臣とも)永井刑部が築いたとあります。北郷氏領の頃の『北郷時久日記』には平松陣の名称でたびたび登場し、元龜4(1573)年3月8日の神事、天正2(1574)年12月5日の陣払いの記録が残されています。

現在も残る遺構は、庄内の乱に備えて伊集院氏が改修したもので、志布志・松山方面から北上する島津方に備えたものであり、奇抜な四連の構構が特徴的な陣城跡です。

平松城跡～地形測量図～



手取城跡(しゅじゅじょうあと)



大隅町中ノ内、桂の舌状台地に残ります。岩川氏による築城と伝わります。天正14(1359)年、末吉国合原の合戦で相良氏に破れた島津氏久が、自軍に協力しなかった報復として岩川氏手取城を落としています。破れた岩川氏は佐多から種子島・屋久島へと逃れています。

手取城跡 ～近くの文化財～



況井谷石塔群(市指定文化財)

鎌倉期から南北朝期にかけての五輪塔が34基残ります。一番大きな五輪塔は、平家に仕え、勇猛な伝説が残る平景清の墓と伝えられていましたが、実際は一帯を治めていた肥後氏一族の岩川氏の石塔群と考えられています。

新城城跡



新城城跡にもとに残る板碑
重神岡と伝われますが、実際は梵字「マン・文殊菩薩」が
読み間違えられたものです。

大隅町中ノ内、大隅運動公園一帯に残ります。城ノ山、新城、城ヶ迫といった城域に伴う小字名が現在
でもみられ、築城年は南北朝期とされています。三國名勝図会には「土成村にあり、小城なり、税所某の
居城なり」とありますが、これは新城の丘だけを畛ったものと考えられます。天文6(1537)年3月3日、北
郷忠相岩川新城を陥れ、二千余人を生け捕ったと記録が残ります。

岩川城跡



正確な築城年は不明、馬場
城、岩河城、岩尾城とも呼ばれ
ます。岩川八幡神社がある地
点が中心で、寛政11(1799)年9
月に新設された地頭飯屋(伊
訪翁御飯屋)があり、麓と野町
が広がっていました。城域は
旧岩川小学校から南側の別府
集落あたりまで。永禄9
(1566)年6月16日北郷時久領
であった岩川城を肝付氏が攻
めたと記録が残ります。

岩川城跡 ~近くの文化財~



伊訪翁御飯屋跡地
岩川八幡神社の旧岩川小学校敷地内にありました。



(左)別府の板碑(市指定文化財)
建立や由来は不明ですが、梵字「カ・地藏菩薩」が刻ま
れており、供養のためのものと考えられます。右側は元禄
12(1699)年建立の阿弥陀如来と地藏菩薩。地元ではイ
木の神様として祀られています。

月野城跡



築城年は不明、根野城とも記
載します。月野小学校から月野
中学校あたりまでが城域であっ
たと伝わります。天文7年までは
教仁院新納氏領でしたが、後に
肝付氏領となります。元禄3(167
2)9月29日、島津義久の命により
北郷時久が根野村を攻撃、島津
方となります。庄内の乱では伊
集院軍の日高静鎮・中村吉右衛
門らの急襲をうけて落城。城主
の若松石見守は討ち死にとなり
ます。石見守の墓は月野城跡の
段下山にあります。

月野城跡



月野城跡 ～近くの文化財～



若松石見の守の墓(市指定)

島津方、月野城城主若松石見守宗右衛門の墓。中央の一番大きなもの。墓石には「為略隠林上座 慶長四年己亥七月三日 宗安道慶居士若松宗右衛門」とあります。周辺の五輪塔や宝塔などは由来が不明なものばかりです。



月野小学校校庭内の柿の木

若松石見守と家臣の7名の惣念がこもっている柿の木。毎年7個の実をつけ、木を伐採したら祟られると伝わっています。近年枯死してしまいました。

恒吉城跡



築城年代は不明。大きく3つの城からなり、日輪城・東高城・西高城の総称が恒吉城と呼ばれています。戦記等では天文14(1545)年、山田時久が領主の時に肝付兼統の攻撃を受けて落城したとあり、以降は高山城主肝付兼統による攻撃や、北郷氏の進出などもあり、城主がたびたび入れ替わっています。文禄4(1595)年から伊集院幸侃の所領となります。

恒吉城跡



庄内の乱では都城十二外城の一つとして、伊集院宗右衛門、海間兵三郎を将とし約1,000名で守備。島津方は島津忠長、榊山久高、柏原将監らを筆頭に約3,000人で城攻めを行います。城壁堅固で落城できず、最終的には単身城内に乗り込んだ榊山久高の説得により開城となります。乱終結後は恒吉館に郷が建設されます。

恒吉城跡 ～地形測量図～



恒吉城跡 ～城内の遺構～



城内に残る畝状空堀

城内には畝状空堀・多重横堀・通称多重堀切が残されています。これらは庄内の乱に備えて造成されたもので、伊集院氏が薩摩系の技術を南九州型城郭の恒吉城に取り込んだと考えられます。

恒吉城跡 ～城内の遺構～



三宝荒神
恒吉城内で、最も標高の高い日輪城の頂上にあります。



恒吉城跡内に残る横堀と空堀。

城内には地形を生かした防衛施設が多く残されています。しかしながら脆弱な土壌でかつ民有地が多く、さらに近年の自然災害などで被害を受けることも多く、保存のために苦慮しています。



恒吉城跡 ～近くの文化財～



窪川家住宅(旧遠矢家住宅) (国登録有形文化財)

恒吉遠矢家は島津義弘に仕えた遠矢下地守良堅の子良長を初代とし、庄内の乱終結後、薩州吉田から恒吉に居住しました。幕末まで続いた家柄で恒吉郷の有力者でした。昭和40年代に現職である窪川家に譲られました。

恒吉城跡

～近くの文化財～



野町のそば切り踊り(市指定)

恒吉の野町地区に伝わる伝統芸能です。庄内の乱で敵兵にそばを振る舞い命乞いをしたというエピソードが残されており、西南戦争でも官軍にそばをふるまったと伝わります。



さいごに……

曾於市内の山城跡を一部ご紹介しましたが、郷土史等にはまだ多くの山城跡、陣跡の記録がみられ、また市内各地の大字小字にも城域の名残と考えられる地名が多く残されています。

城跡、城域に関連する市内の埋蔵文化財包蔵地(上記紹介分含む)

- ・財部→5件
- ・末吉→11件
- ・大隅→25件

市教委では長期にわたり資料調査や現地調査を行っておりますが、過去に消滅・破壊されてしまったものや、伝承や伝記が不明瞭で怪しいもの、そもそも誤認であったものなども見られます。

今後の課題として、地道な資料調査や踏査、現地調査はもちろん、近隣の文化財からのすり合わせによる検証もより重要と考えられます。